

医療分野参入、グローバル化加速、 特例子会社設立など「新規事業続々」で、 お客様や地域の期待に応えてまいります

グループ総合力を結集し 医療分野に本格参入

当社 日東精工は本年10月からメディカル新規事業準備室を設置しています。

前号でご紹介した「日東テクニカルレポート」の最新号巻頭で、堤定美京都大学名誉教授に医療関係機器の国際規格の論文を寄稿いただいていることからもおわかりいただけるように、当社では研究開発部を中心に、産学連携や異業種コンソーシアムなどで医療分野での研究開発を進め、画期的な技術や製品を市場に投入する準備をしています。「グループ総合力を結集し医療分野に本格参入」を加速していくためのもので、①国内向け医療機器の製造と販売体制の確立 ②開発製品の製造及び販売における各種認可の取得 ③販路拡大に向けたマーケティング活動及び販売促進活動を目的にしています。

この情報を8月にメディア向けにリリースしたところ、奇しくも同時期に「2019年12月期第2四半期決算」や『日東精工SWIMMY株式会社設立』『連結子会社である和光が中国に新たに子会社設立』といったプレスリリースと重なったこともあり、当社が本社をおく綾部市の「あやべ市民新聞」で「日東精工新規事業続々」の大見出しのもと一面トップで当社事業のことをご紹介いただきました(8月19日付)。

「新規事業続々」の見出しは 当社への大きな期待

「中国に子会社」という新聞見出しは、当社連結子会社である和光株式会社(以降和光)が中国の東莞市において子会社を新設するという内容を受けてのものです。

和光が2001年2月に設立した子会社・香港和光精工有限公司は、日本国内市場への輸出を主体に事業拡大を進めていますが、この会社で培



ったアジア地域における工業製品の調達力を活かし、中国に進出するお客様の現地調達ニーズに応え、より身近で敏速なサービスを展開するためのものです。

「市内初 障がい者雇用の子会社設立へ」「地元から新規採用の予定も」は、当社が、障がい者の雇用と活躍できる職場づくりを目指し、特例子会社の認定取得を前提とした『日東精工SWIMMY株式会社』を設立することを発表したものです。特例子会社の設立は、日東精工グループにおけるCSR(社会的企業責任)の一環として、障がい者の個性や多様性を尊重し、雇用機会の創出や拡大を視野に入れたものの。社名『SWIMMY』は、レオ・レオニ作の絵本「スイミー」に由来し、個々の特性や能力が全体の集まりとなって、より大きな力を創造するという考えを「創発型チーム」という想いに込めています。

「四半期利益は増益」については業績報告、つまり結果を受けてのものですが、それ以外の記事は事業戦略、経営計画を紹介するものでした。

成果を見極め、結果を待つからではなく、これからの当社の事業が大きく紹介されたことは、地元からそれだけ大きな期待を寄せていただいていることの証ともいえるでしょう。当社ではその期待に十分応えるべく、また地元だけでなく、お客様、株主様など、当社に関わるすべての方の期待以上の成果を上げていくために、邁進してまいります。

「関西機械要素展」「モノづくりフェア」 「接合・接着EXPO」など秋・冬は展示会が目白押し

「展示会」関連は毎秋から冬にかけて目白押しです。当社日東精工では本シーズンも関連子会社や海外現地法人が参画するものも含め、多数の展示会・イベントへの出展を予定しています。

10月2～4日は「第22回関西機械要素展」(インテックス大阪)に、ファスナー、産機、制御システムの3事業部連携で出展し、



昨年の「関西機械要素展」

当社ならではの強みファスニングソリューションをアピールしました(これらの展示内容は次号で詳細をご報告予定)。

10月は16～18日の「モノづくりフェア2019」(福岡マリンメッセ)のほか、10月22から24日までアメリ

カのシカゴで開催される「The Assembly show」に現地法人日東精工アメリカ(NSA)が出展し、自動車分野向けに日東精工の産機事業の特長を訴求してまいります。さらに12月4～6日の「接着・接合EXPO東京」(幕張メッセ)、などにも、関連会社や協力企業様などとコラボレーションを進めていく予定です。詳細はホームページやメールマガジンなどで随時お知らせしていきます。



写真3点上から「モノづくりフェア」「The Assembly show」「接着・接合EXPO東京」(いずれも昨年のももの)。

日東精工の関連会社、協力会社が 「あやペロボットコンテスト」に協力!

ロボットコンテスト、ロボコンといえば高専生や大学生の国内大会や海外大会が毎年NHKのテレビで放映され人気ですが、日東精工の本社がある綾部市では、さらに若い世代、小学生を対象にした「あやペロボットコンテスト2019」を今年の夏に開催しました。この「ロボコン」を主催した「綾部鉄工業協同組合」は、日東精工の連結子会社である日東



イベントは2回に分けて行われ1回目は基本ロボットを皆で組立て、それを持ち帰り1ヶ月かけて各自のアイデアで改造し、2回目のイベントで改造ロボットを競い合うもの。優勝のほかに、技術賞、アイデア賞、優秀賞などが用意された。

公進、ニッセイ、東陽精工の3社をはじめ、日東協会のサント機工、波多野製作所など多数が組合員で、つまりは日東精工グループを挙げこのコンテストをサポートさせていただきになります。

モノづくりのおもしろさを体験し、その大切さを学んでほしいという願いから企画されたものですが、主催者が予想する以上に参加者のレベルも高く、各方面から高い評価を得るイベントになりました。

子会社協力会社だけでなく、当社日東精工では、産機事業部で「ねじ締めロボット」を製造・販売しておりますし、ねじ締めロボットの最新機器を次世代教育のためにと京都府立工業高校に寄贈しています。そのほか「綾部工業研究所」を50年以上中心となってサポートし続けており、これからも、地域の技術者、研究者育成、あるいはその卵の成長をフォローしていきます。



今年初めて企画されたものですが継続を希望する声が多い。

「京都グリーンケミカル・ネットワーク」 ビジネスマッチングに出展

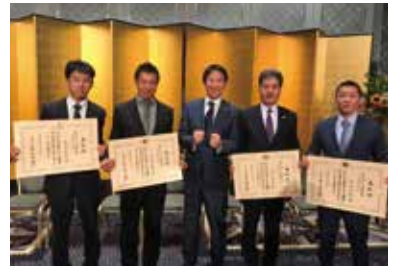
当社の社外取締役でもある平尾一之京都大学名誉教授が会長を務める「京都グリーンケミカル・ネットワーク」は、京都市域のベンチャー・中小企業を中心に販路開拓の支援や、売上向上、雇用拡大を目指すための「オープンイノベーション」を、9月5日に京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールで開催しました。



市場が求める新規材料の機能はより複雑で、かつ複合化が進んでいます。それぞれの材料の壁を超えた融合研究開発が増えるなかで、大手・中堅企業のニーズ・シーズを紹介し、ビジネスマッチングを行うもので、当社日東精工もファスナー事業部や研究開発部を中心に異種金属接合「AKROSE」の製品展示やプロモーションを行いました。

当社従業員 岩崎拓夫が 文部科学大臣表彰

昨年インドネシア・ジャカルタで開催された「第18回アジア競技大会」に当社パラグライディング部の岩崎拓夫が日本男子チームの選手に選出され、金メダルの獲得に貢献しました。当社では社長表彰を行ったほか、本社のある綾部市に表敬訪問などを行いました。今年夏、このアジア大会での活躍・金メダルなどが評価され、文部科学大臣より表彰を受けました。写真は東京赤坂にあるホテルニューオータニでの表彰式のもの。



なお、岩崎は今シーズンも絶好調で9月30日現在、個人ランキング日本1位を維持しています。

表彰を受けるパラグライダーチーム。向かって左いちばん端が岩崎拓夫。なお中央は鈴木大地スポーツ庁長官。

2019年12月期第2四半期 決算説明会を東京・日本橋で開催

2019年12月期第2四半期決算説明会を8月27日、東京日本橋の日本投資環境研究所で開催いたしました。機



関投資家やアナリスト、メディアの方々を対象に、当社日東精工代表取締役社長材木正己がパワーポイントを使って今期も増収増益であることをご説明。また当社ならではの強み、これからの課題やそれに対する取り組み、業界動向なども解説しました。

アメリカと中国、あるいは日韓の諸問題など厳しい国際情勢が、経済にも影響が出始めていますが、まだまだ伸びしろのある当社、日東精工の潜在力と中期経営ビジョンをご理解いただくことができました。

ねじメーカー若手経営者約20名に 当社を見学いただきました

埼玉県東部エリアを中心に、業界紙の金属産業新聞社が事務局を務めるねじメーカー若手経営者（一部、金型・工具・めっき業者なども在籍）による団体「大樹会」があります。9月20日、同会から約20名の方が当社日東精工本社をご訪問いただきました。

ねじや締結システムの最新技術をはじめ、地域と密接に関わりながらグローバル展開している当社の取り組みを学びたいというご要望に応じて、工場見学会を準備したものです。

今後も当社日東精工ではガバナンスを強化し、オープンにできるものは開示し、業界全体の底上げに協力してまいります。





8Kテレビと葛飾北斎

皆

皆さんのご家庭のテレビはどんなタイプ？

以前に三菱電機の柵山正樹社長（当時 現会長）と対談をしたおりに、応接室で大型の4Kテレビの映像を見せていただいて、その美しさに感動を覚えました。令和の時代となり、今後、オリンピック観戦を控えてテレビを買い替える人も増えるのでしょうか。

平成の時代でも、22（2011）年まではアナログ放送でした。ふつうにきれいに映っていると思っていたのですが、今、昔のドラマや映画を見ると映像の美しさの違いが歴然です。孫といっしょにお笑いやバラエティを楽しむのも悪くはないのですが、やはり歳を重ねると、世界遺産だとか日本の原風景だとか、静かな番組も味わい深いです。

さて、少し前のことですが、NHKで絵師・葛飾北斎の特集が放映されました。人間の肉眼ではとらえきれない

ものまではっきり映し出す超細密高画質の8Kテレビカメラで、北斎の作品を鑑賞するとどうなるかというものでした（BSや普通の地上波でも鑑賞できる番組です）。

北斎が描いたものか、その真贋がはっきりしない晩年の作品群を超精密高解像度のカメラでとらえ拡大してみると、川の水の動きや着物の模様など、相当の技量があるものではないと描かれない、それも北斎特有のものであるということがわかったのです。

それまで北斎作かどうか疑わしいという立場だった学芸員が、「北斎というイメージでこの作品をとらえると、どこか甘い印象でセンチメンタルに思っていたのだけれど、それは自分のもっている枠で見ただけだった。北斎はやっぱ偉大だ」というような趣旨の発言をされていました。北斎が80歳を超えたときに描いた作品群といわれますが、北斎はすでにもう評価も名声

も得ていたのに変わろうとしていた、新境地を目指していたことがわかったのです。実際、じつは北斎は何度も画風を変え、その度に名前（雅号）を「北斎」「辰斎」「画狂人」「画狂老人」などと変え、その数は30を超えたといえます。北斎のあくなき探求心、挑戦に脱帽です。と同時に、自分の誤りというか、思い込みを素直に認め感動する学芸員の姿勢も素晴らしいと思いました。自分の「枠」で見

しまう、「枠」の中に閉じ込めてしまつてはいけなないと自戒もしました。

そして、これまで見えなかったことが見えてくる、気づけなかったことに気づけるようになるという現代の技術革新にも感動を覚えました。より便利になる、より快適になつていくというだけでなく、まさに新しい価値の創出ですね。当社の製品や技術も皆様に喜びと感動を与えるものでありたいと思っています。

連載②

あやべ ちょっと寄り道

綾部発祥、平和を希求する「中東和平プロジェクト」

中東和平プロジェクトは紛争で肉親を失ったイスラエルとパレスチナの若者を日本に招き交流させることで、憎しみの連鎖を断ち切ろうという、世界連邦宣言都市、綾部市発祥のイベントです。今夏、9年ぶりに綾部で開催（各地で開催され綾部は3回目）。式典や会議だけでなく、パレスチナの子、イスラエルの子ひとりずつが同じ綾部の一般家庭でホームステイ。日本人ホストファミリーを囲んでかつての憎しみの対象が寄り添いながら別れを惜しみました。綾部には優しい人、あたたかい人が多いのです。綾部にぜひお立ち寄りください！

